



気づき・考え・行動する仲間達 (あなたに差し出す手のぬくもり)

【令和6年度の活動内容の特徴】

【即戦力の育成】

- ・能登半島地震支援に派遣された方々から、今備えるべき地域力の必要性（受援対応力等）を学び、出来ないことを出来るに変える人財を育てる。

【団体の紹介】

- ・岐阜市本荘地域
- ・2009年から約16年活動中
- ・設立から一貫している活動テーマ「防災・生きる」
人の垣根を作らない取り組み
「繋がる地域づくり」
地域サロンへ参加し繋がる

【今年新たに組み込んだ防災活動】

【現状を知る（情報の収集と伝達）】

- ・災害弱者の避難誘導方法の模索＝安全な避難路を見つける（避難者へ現状報告+避難経路の情報共有）
- ・被災場所をタブレットで撮影し対策本部へ送る⇒地図に書き込む
- ・中学生だからこそ学校周辺（通学路）の地理を把握している。



【活動内容の詳細】

【ぬくもりと優しさの避難所】

- ①本部に届いた情報を救助者へ伝え（タブレット）臨機応変に避難経路を選び出す。
- ②避難所で靴が脱げない方、足が冷える方等へのシューズカバー。staff介助を辞退し、室内に入れない方のために自動シューズカバー機を準備。但し、安全のため福祉用具の手すりを設置。
- ③「新聞紙でご飯が炊ける？」災害時にあったかいご飯が少数でも準備できる【魔法のかまどごはん】お湯が沸けばレトルト食品も活用できる。
- ④突然の災害で避難所生活が始まると、心が不安定になる方がいる。一息つけば落ち着けるのではと個室の準備。能登半島地震時に倒壊の危険がある自宅に帰る方が見えたとか（DMAT報告）。高齢者でも出来る組み立て用ビスや未就学児のお絵かきボードにもなる段ボール個室は有効



◎ 平常時に気づくことが優しさに。

【岐阜市民病院災害訓練に参加して】



- ・被災者への声掛けは、受け身になって気づくことがあります。この災害訓練ではいざ自分が支援者になり相手に声をかける時・寄り添う時どんなことに注意が必要かを考えるためには必須の機会と考えます。この先地域にある基幹病院が災害拠点となった時、同じ時・同じ言葉で気づきを共有した人たちが繋がれることを願っています。



カームダウン・クールダウン室
Calm down, cool down room

地域性・人の繋がり・地域資源・情報の共有等について、みんなで一緒に考えて
安心安全なまちを！作りましょう。